

正誤表

本書におきまして下記のとおり記載内容に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

● p. 7 表4 pTNM 分類の概要

誤			正		
pT 因子 *1	TX	原発腫瘍がない。	pT 因子 *1	TX	原発腫瘍がない。
	TO	原発腫瘍の評価ができない。		TO	原発腫瘍の評価ができない。
	Tis	上皮内癌。		Tis	上皮内癌。
	T1-4	原発腫瘍の大きさと局所浸潤の程度により分類。数値が高いほど腫瘍径、浸潤範囲が大きい。		T1-4	原発腫瘍の大きさと局所浸潤の程度により分類。数値が高いほど腫瘍径、浸潤範囲が大きい。
pN 因子 *2	NX	所属リンパ節の評価困難。	pN 因子 *2	NX	所属リンパ節の評価困難。
	NO	所属リンパ節への転移なし。		NO	所属リンパ節への転移なし。
	N1-3	所属リンパ節への転移あり。数値が高いほど進展。		N1-3	所属リンパ節への転移あり。数値が高いほど進展。
M 因子	MX	所属リンパ節の評価困難。	pM 因子 *3	MX	遠隔転移の評価困難。
	MO	所属リンパ節への転移なし。		MO	遠隔転移なし。
	M1	所属リンパ節への転移あり。		M1	遠隔転移あり。

\*1：原発腫瘍のリンパ節への直接浸潤はリンパ節転移として扱われる。

\*2：微小転移転移（転移巣の大きさが0.2cm未満）の場合は、(mi)を付けて表記。pN1(mi), pN2(mi)など。

\*1：原発腫瘍のリンパ節への直接浸潤はリンパ節転移として扱われる。

\*2：微小転移（転移巣の大きさが0.2cm未満）の場合は、(mi)を付けて表記。pN1(mi), pN2(mi)など。

\*3：手術症例の場合、pM因子を「確定」するのは困難(pMX)で、pM1のみ顕微鏡的に確認した場合に確定することができる。

● p. 39 表1 乳腺細胞診断・針生検の報告様式

誤		正	
1) 判定区分	検体不適正 inadequate 検体適正 adequate 正常あるいは良性 normal or benign 鑑別困難 inadequate 悪性の疑い suspicious for malignancy 悪性 malignant	1) 判定区分	検体不適正 inadequate 検体適正 adequate 正常あるいは良性 normal or benign 鑑別困難 indeterminate 悪性の疑い suspicious for malignancy 悪性 malignant
2) 所見（針生検では推定組織型）	(1) 判定した根拠 (2) 可能な限り推定される組織型	2) 所見（針生検では推定組織型）	(1) 判定した根拠 (2) 可能な限り推定される組織型

● p. 176 左段1行目

誤 複雑型子宮内膜増殖症 → 正 複雑型子宮内膜異型増殖症